

# 令和 2 年度

## 特定非営利活動法人日本レスキュー協会事業報告

(期間：令和 2 年 9 月 1 日から令和 3 年 8 月 31 日)

### ■日本レスキュー協会全体の動き P：3

- ・組織
- ・組織の動き

### ■事業の成果

#### 【災害救助犬事業】 P：4～6

- ・災害対応
- ・災害救助犬の標準化に向けた事業
- ・各種プログラム
- ・育成
- ・活動資金
- ・災害救助犬事業人材確保
- ・その他

#### 【セラピードッグ事業】 P：7～11

- ・被災地慰問（令和 2 年 7 月九州北部豪雨災害・令和元年 8 月九州北部豪雨災害）
- ・セラピードッグ派遣事業
- ・活動資金（大阪母子医療センター・国立国際医療研究センター病院）
- ・各種プログラム
- ・セラピードッグの育成
- ・その他

#### 【動物福祉事業】 P：12～14

- ・犬の保護、引き取りと管理に関する事業
- ・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業
- ・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業
- ・災害への対応（令和 2 年 7 月豪雨災害・熱海市伊豆山地区土石流災害・令和 3 年 8 月豪雨災害）
- ・保護犬を災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業
- ・犬のしつけ方教室の開催
- ・愛犬とともに学べる防災知識の発信
- ・動物福祉事業組織体制

【佐賀県支部】 P : 15～16

- ・活動資金調達について
- ・災害救助犬事業
- ・セラピードッグ事業
- ・動物福祉事業関連
- ・その他

## ■日本レスキュー協会全体の動き

### ・組織

理事長 : 吉永 和正  
副理事長: 伊藤 裕成  
理事 : 河合 伸朗  
理事 : 北畑 英樹  
理事 : 早川 住江  
理事 : 岡 武  
監事 : 鵜飼 卓

職員数 : 12 名

(事務局) 岡 武 (事務局長)

(事業部)

高木 美佑希 (災害救助犬事業責任者)  
清水 春花 (災害救助犬事業スタッフ)  
高橋 玲衣 (災害救助犬事業スタッフ)  
高須 正彦 (災害救助犬事業スタッフ)  
赤木 亜規子 (セラピードッグ事業責任者)  
南園 彩子 (セラピードッグ事業スタッフ)  
辻本 郁美 (セラピードッグ事業スタッフ)  
守谷 賀予 (事業部庶務係)

(管理部)

伊藤 美貴 (経理総務責任者)

(佐賀県支部)

原田 亮 (佐賀県支部全般スタッフ)

(契約職員)

松林 良子 (災害救助犬事業スタッフ)

### ・組織の動き

新職員 : 1 名 (契約職員含む) 高須 正彦

退職 : 3 名 (事業部) 寺岡 祐介、三原 麻耶、金井 瑛世

## ■事業の成果

### 【災害救助犬事業】

令和2年度も継続して災害救助犬の育成・派遣を実施しました。

#### ・災害対応

##### 令和3年7月伊豆山土砂災害対応

7月3日（水）、熱海で発生した土砂災害を受け、災害救助犬チームは、すぐさま情報収集を開始し、出動態勢を整えました。熱海市は出動協定のない自治体でしたが、柔軟に対応して頂き、即日「現場の状況によってはすぐに活動要請できないこともあるが、それでも問題なければ要請させてください」と返答があったため、出動を決定。同日18時、隊員5名、救助犬1頭（太陽）が本部を出発しました。また、他団体の救助犬チーム（救犬ジャパン、HDS K-9、かりゆしドッグスクール）とも連携し、4日午前1時、人員11名5頭が現地入り（熱海市消防本部）しました。

7月4日（木）、早朝の災害対策本部会議にて救助隊指揮下での活動が決定し、2チームに分かれて2か所の搜索エリアに救助犬を配置しました。

現場は、数メートルほど堆積された土砂や跡形もないほど流された家屋、横転している車両など、被害は広範囲におよび、水分を多く含んでぬかるむ土砂は救助隊の身体を飲み込むように活動を阻んでいました。

救助犬の活動は、日に日に信頼されるようになり、発災直後は導入に慎重だった救助隊も積極的に運用するようになりました。連日のように消防・警察・自衛隊からの要請は続き、それに応えるために多くの救助犬団体が動きました。私たちは、現場に混乱を招かないように行政と救助犬団体を繋ぐ調整窓口も務め、要請が途絶えるまで態勢を整えることを決定。要請があればすぐに対応できるように全国の救助犬団体から協力を得ながら、20日間で延べ50団体、143名、107頭を派遣しました。複数回の搜索を通して救助犬の反応箇所から行方不明者の発見に至ったと報告されたこともありました。

##### 令和3年8月九州豪雨災害対応

8月11日から降り続いた大雨により、8月13日には佐賀県他、全国各地で浸水被害が発生し、長崎県雲仙市では行方不明者情報も報道されました。長崎県雲仙市の被災地では、すでに自衛隊管轄の救助犬が現場で活動し、また被害が局所的であったことから、民間の救助犬の導入は見合すと判断されましたが、搜索範囲の拡大等、状況の変化によっては要請の可能性があります。また雨雲は、さらに日本を縦断すると予報された為、災害救助犬チームは、九州派遣組と岐阜や長野での被害に備えて本部待機組に分かれて対応を決定。8月15日に被災ペット支援チームと合同で人員4名、救助犬1頭が佐賀県に向けて出発しました。

被災ペット支援活動に従事しながら5日間佐賀県支部にて待機しましたが要請がなかったため、撤退を決定し、隊員1名と救助犬1頭が本部に帰協しました。

#### ・災害救助犬の標準化に向けた事業

災害救助犬が人命搜索の一つの手段として有効に運用される社会を目指すため、本年も多くの関係機関と連携訓練を実施する予定でしたが、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、訓練の中止が相次ぎました。その中で、主要な連携機関である神戸市消防局とはタイミングを考慮しながらも山岳事案を想定した訓練

を実施することができ、訓練では、救助隊による救助犬の輸送訓練も執り行われ、より発展した内容となりました。(防災訓練1回、連携訓練2回)

### 他機関との連携および訓練

本年度も他の救助犬団体との連携を図るために、県内外での合同訓練の実施に努めました。コロナウィルス感染拡大の影響を受け、実施を見合わせることも多く、例年と比較すると十分な回数は実施できませんでしたが、熱海市土石流災害では多くの救助犬団体と連携し活動出来たことから、少しずつ横の繋がりが強化されてきたと実感することができました。(合同訓練4回)

### 関西学院大学研究事業参加

7月26日、関西学院大学が実施する「災害初期対応の安全向上と効率化を目指した技術評価に関する研究」に、日本レスキュー協会が参加致しました。本研究は、2020年から欧州を中心とする複数の国々(世界11ヵ国23組織)で地震や洪水、そして火災などを想定したシミュレーション実験が行われ、日本での試みは初めてとなります。

犬たちは、東北大学が開発したサイバースーツを着用。このスーツにはGPSやカメラが搭載されており、犬の行動や瓦礫内部の様子が把握できます。災害現場では犬たちの身体に装備を着用することのリスクもあるため、全ての現場で今すぐに実用化はできませんが、スーツの小型化が進めば山岳での捜索等、これからの期待できることは多く、犬たちの能力をより一層引き出してくれるものでした。

災害時、より迅速に安全に救助活動が出来るようにと考えられた国際的な研究において、災害救助犬が組み込まれていたことに、災害現場での救助犬運用の有効性が少しずつ広まってきていると感じています。

#### ※参加組織

一般社団法人地域再生・防災ドローン利活用推進協会(RUSEA)

神戸市消防局(垂水消防署)

東北大学 田所・大野・昆陽・多田隈研究室

認定NPO法人 日本レスキュー協会

関西学院大学 Intelligent Blockchain+ Innovation Research Center

### 救助犬試験

他団体の救助犬のレベルを把握する為、救助犬試験を作り開催いたしました。試験はレベル1(初歩)～レベル5(出動レベル)、5段階評価(V(優)、SG(特良)、G(良)、B(可)、M(不可))とし、犬のレベルに合わせて受験できるようになっています。5月29日に第一回を開催し、千葉、東京など県内外から6名8頭が受験。そのうち2頭がレベル5に合格し、現場での連携が可能と考えています。

### 協定締結

令和3年3月31日 和歌山県(行政との協定:54番目)

令和3年6月25日 福岡県(行政との協定:55番目)

#### ・各種プログラム

##### しつけ教室

本年度も愛犬家に向けて、犬との暮らしをより良いものとする為、しつけ教室を開講致しました。延べ

13組が受講、185,000 円の収入を得ました。

#### **救助犬サポーター養成講座**

本年度も救助犬サポーター養成講座を開講致しました。救助犬サポーター養成講座は、座学や犬舎案内、質疑応答などを通して、救助犬の認知度を上げることが目的です。月に一度の開催を目途に 9 回実施し、35 名が受講、105,000 円の収入を得ました。また、コロナ禍ということもあり、Instagram を使用し、オンラインでも開催いたしました。オンラインにより遠方からの受講者が増加致しました。

#### **救助犬育成体験プログラム / 救助犬ハンドラー養成コース**

本年度も救助犬育成体験プログラムを 2 度開催し、計 8 名の専門学生（徳島・愛知・神戸）が参加しました。また、コロナ禍でイベントの開催が難しくなったことと一般の飼い主様からの要望があったことから 3 時間を 6 回受講する救助犬ハンドラー養成コースを新しく開講し、2 名の受講者となりました。2 つのプログラムを合わせて、計 200,000 円の収入を得ました。

#### **救助犬育成コース**

救助犬の育成促進を目的とした救助犬育成コースを新たに開講しました。このコースでは、育成に欠かせないヘルパー（要救助者役）を職員が担い、指導をしながらレベルアップを図ります。1 組の参加があり、5,000 円の収入を得ました。

※各種プログラムでは 計 495,000 円の収入を得ました。

#### **・育成**

##### **災害救助犬候補犬の導入**

今年度の導入はありません。

#### **救助犬試験**

**(5 月 24 日実施)**

太陽：レベル 5 合格 (SG 評価)

陸：レベル 3 合格 (V 評価)

道：レベル 3 合格 (SG 評価)

#### **・活動資金**

##### **企業支援 / 助成金**

本年度も、東京海上日動株式会社 (¥279,687)、東京センチュリー株式会社 (¥538,800)、真如苑 (¥800,000)、連合「愛のカンパ」 (¥400,000) に救助犬の活動資金をご支援頂きました。

##### **Yahoo! ネット募金**

本年度も拡散に努め、1 年間で 1,885,828 円集まりました。8 月に多くの寄付が集まったことから、災害による反響が大きかったと考えています。

## Syncable

「Syncable」にて新たな寄付ページを立ち上げました。このサイトでは様々なキャンペーンを企画することが出来、第1弾のキャンペーンとして「災害救助犬訓練犬「陸」のバースデードネーション〜頑張る救助犬たちの育成費を集めたい〜」を立ち上げ、1ヶ月間で、451,939 円の支援金が集まりました。

### ・災害救助犬事業人材確保

今年度は、1名を正職員として確保しました。また、2名の契約職員が正職員となりました。

### ・その他

2020 年度エクセレント NPO 大賞「組織力賞」ノミネート

災害救助犬「ホープ」引退

災害救助犬引退犬「ジェイ」譲渡

災害救助犬リタイア犬「秋桜」永眠

## 【セラピードッグ事業】

令和2年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しました。

※新型コロナウイルス感染対策により、通常訪問・被災地慰問・大阪母子医療センターへの訪問など、活動再開の目途はまだ立っていません。

### ・被災地慰問

令和2年7月九州北部豪雨災害被災地慰問（令和2年10月11日／佐賀県）

佐賀県武雄市のおもやボランティアセンターからご要望をいただき、「第2回 防災カフェ」に龍馬と希が参加しました。来場された方には、セラピードッグたちとふれあっていただき、缶バッジやポストカードをプレゼントしました。また、来場していた子どもたちと一緒に会場の園庭を散歩するなど、様々な企画を盛り込み実施しました。

「防災カフェ」は、地元の皆さんが集まり、みんなでいろんなお話をしながら防災について一緒に考えるというイベントで、おもやボランティアセンターではこのように地域に密着した、住民さんとの話し合いの場を作り一緒に考える、という取り組みを多くされています。台風10号の時を振り返って「みんなで避難所について考える座談会」にも参加。座談会では、ペットがいるから避難所に行けない、といった意見が多くある事が挙げられていました。

避難所のペット受け入れについて話し合いが必要であるのと同時に、飼い主さんのペットの適正飼養がとても重要になるため、避難所でのペットの安全確保とストレス軽減のために、普段の生活からケージを取り入れるなど、飼い主さんの意識を変えていくことも大切です、といったお話をしました。

同時に、住民の皆さんの体験を直接聞き、住民の皆さんやペットたちが有事の際に安心して避難できるような仕組みづくりのために、私たちができることに取り組んでいかなければならないことを再認識しました。併せて、日本レスキュー協会オリジナル防災セットを来場者の皆さんにお配りしました。

令和2年7月九州北部豪雨災害被災地慰問（令和2年10月31日／大分県）

佐賀県武雄市のおもやボランティアセンターからの繋がり、大分県日田市の特定非営利活動法人リエラ主催の中津江村の復興イベント「中津江村防災復興交流会」に龍馬とみらいの2頭が訪問しました。

主催の特定非営利活動法人リエラは、令和2年7月豪雨が発生時から、大分県日田市にて、地元へ密着した復興支援活動を継続されています。7月には、当協会の被災ペット支援活動の際に連携して活動を行いました。

イベントでは、来場された中津江村民の方々に、セラピードッグと触れ合ってもらい、缶バッジやポストカードなどをプレゼントしました。子どもたちには、好きなセラピードッグを選んで缶バッジを手作りする体験が好評でした。屋外のイベントだったため、お散歩体験や写真撮影も実施しました。

7月の被災ペット支援活動の際に避難所でペット用品等をお届けしたご家族も、セラピードッグたちに会いに立ち寄ってくださいました。

そして、協会オリジナル防災セットの配布、ペット防災に関しての呼びかけやチラシ配布等も実施しました。さっそくリュックを背負って、元気に帰られた方もいらっしゃいました。

中津江村の幅広い世代の住民の皆さんが、セラピードッグとのふれあいを通じて笑顔で交流されている様子が印象的でした。会場では焼きそばなどの炊き出しや、防災グッズの展示・配布が行われていたほか、別府温泉を体験できる大掛かりなテントが設置され、住民さんが楽しまれていました。

## 令和元年8月豪雨災害／令和2年7月九州北部豪雨災害被災地慰問（令和2年11月7・8日／佐賀県）

佐賀県武雄市のおもやボランティアセンターで開催された「おもフェス&マルシェ」にハッピーとけんたの2頭が参加しました（セラピードッグの参加は8日のみ）。「被災地を繋ぐ」をテーマに開催された今回のイベントでは、全国各地から農産物や特産品が集まり、売り上げがすべて出品者に還元されるという形で実施されました。

けんたは今回が初めての慰問活動となりましたが、身体の大きさとぬいぐるみのような手触りが来場者に大人気でした。セラピードッグとのふれあいを楽しみにして来場したという子どもさんもあり、普段あまりふれあう機会のない大型犬とのふれあいを楽しんでいました。

日本レスキュー協会オリジナル防災セット（人用・犬用の2種類）を来場者の皆さんにお配りし、クレートトレーニングなど日頃からできる「愛犬のしつけ」についてもお伝えしました。また、来場者へのプレゼントとしてセラピードッグの缶バッジやポストカード、カレンダーを配布しました。

## 令和元年8月豪雨災害／令和2年7月九州北部豪雨災害被災地慰問（令和3年6月13日／佐賀県・オンライン）

佐賀県武雄市のおもやボランティアセンターから依頼を受け、「おもやオンライン防災教室 ペットを守ろう」に講師として参加龍馬がしつけの実演を行いました。武雄市のペットを飼っている住民さん向けにオンラインで開催され、被災地慰問の一環として行いました。イベントでは災害時に役立つペットのしつけ教室や非常持ち出しセットについてお話ししました。

おもやボランティアセンターからは、以前よりペットの防災に関するご要望をいただいております、5月には「おもやいぼうさいフェス」に訪問予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で延期となっていました。そんな状況の中、例年より早い梅雨入りで、ペットとの避難について不安を持たれている住民さんからの声が多かったそうで、今回のイベントが開催されました。

しつけ教室では、ハウストレーニングや口輪・靴のトレーニング、だっこの方法などを、「龍馬」と実演を交えてお話ししました。また、いざという時のために準備が必要な「ペット用持ち出しセット」の紹介も行いました。

参加者の方は、説明を聞きながらしつけの練習を実際にやってみたり、いろいろな質問を投げかけてくださったりと、双方向のコミュニケーションを取りながら実施することができました。

### ・セラピードッグ派遣事業

今期の平時のセラピードッグによる活動は、高齢者施設10回、障がい者の支援施設6回、学校1回、図書館（読み聞かせ）1回、個人宅訪問2回、大阪母子医療センター16回、国立国際医療研究センター1回、合計37回実施しました（オンライン含む）。その中で新規の訪問施設は3カ所でした。

新型コロナウイルス感染対策により訪問のキャンセルが続いている施設へ、活動再開のご案内のため、営業活動を継続中です。（緊急事態宣言期間以外の時期に実施）

### 図書館での読み聞かせ

武庫川女子大学付属図書館にて、子どもたちがセラピードッグに読み聞かせを行うR.E.A.D.プログラム「絵本読み聞かせ会 セラピードッグといっしょに」を毎年定期開催していましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響でキャンセルになり、実施が叶いませんでした。

2021年3月には、昨年延期になった岸和田市立図書館での読み聞かせを実施しました。子どもたちにもとても好評で、岸和田市の広報誌「広報きしわだ」にもその様子を掲載して頂き、「ぜひ毎年開催したい」とご要望頂いています。

この岸和田市立図書館での取り組みから、東大阪市立花園図書館からも新規のご依頼を頂き、2021年10月に実施予定です。

子どもたちが本を手にする機会が増えるよう、今後も引き続き活動に取り組んでいきたいと思います。

### **福岡県「ワンヘルス国際フォーラム2021」講演「災害救助&治療／療育に貢献する愛玩動物たち」**

福岡県では、人と動物の共通感染症をはじめとする課題について、これら共通感染症の発生を効果的に予防していくには、人と動物の健康および環境の健全性はひとつのものであるという「ワンヘルス」の理念に基づいた取り組みを推進しています。

2021年1月30日にオンラインにて実施された、福岡県「ワンヘルス国際フォーラム2021」に参加し、日本レスキュー協会として、この「ワンヘルス」にどのように関わり発信できるのか、講演を行いました。

### **ワンヘルスフェスティバル「あのね、ワンちゃん、お話聞いて」（セラピー犬と子どもの語らい交流）**

2020年10月4日、福岡県主催「ワンヘルスフェスティバル2020」における、「人と動物の豊かで良好な関係づくり」という大きなテーマのもと、日頃から音読の練習に取り組んでいる子ども4名とセラピードッグの交流が実施されました。

福岡県が掲げる「ワンヘルス」では、身近な動物が「人の心の健康づくりにも貢献する大切な存在」として位置付けられています。この大きなプロジェクトに、日本レスキュー協会のセラピードッグがどのような役割を担い関わる事ができるのか、次年度も積極的に取り組んで参ります。

### **大阪母子医療センター**

新型コロナウイルス感染対策により、病院では今もなお、全てのイベントの中止とご家族との面会規制が続き、子どもたちも強いストレスを感じているそうです。未だ訪問再開の目途は立っておらず、セラピードッグとの交流を楽しみに待つ子どもたちのため、病院スタッフとリモートによる協議を重ねながら月2回の「オンラインドッグセラピー」を実施しています。（セラピードッグがモチーフの「ぬりえ」や毎月のカレンダー、オリジナルクリアファイルのプレゼントなど、子どもたちへのアプローチも継続中。）

訪問活動が中止となり、「オンライン」での交流を通して子どもたちを元気づける取り組みがスタートした時、画面越しでの交流に対する不安と、やはり実際にセラピードッグに触れてこそ「ドッグセラピー」の効果を感じてもらえるのでは？という疑問がありました。

しかし病院環境にいる子どもたちにとって、「動くものを見る・画面の向こうから自分の名前を呼ばれる」などといった、私たちにとっては些細な事が、大変大きく、うれしい刺激となるため、画面上でも積極的に声をかけてほしい、とQOLサポートチームの心理士の先生から助言をいただきました。

病院内で過ごす事により、子どもたち自身が発達するために足りない刺激を促進する「発達支援」の観点からも、「オンラインドッグセラピー」には十分な効果があり、今後も継続して実施したいとご要望を頂いています。

また私たち自身も、今までの活動の枠にとらわれず、「オンライン」という新たな取り組みをスタートした事で、セラピードッグの存在がもたらす様々な効果について、無限の可能性があるという新たな気づきになりました。

## 国立国際医療研究センター病院

今年度から、東京の「国立国際医療研究センター病院」との「オンラインドッグセラピー」の実施が始まりました。同病院とは、一昨年からセラピードッグの訪問に向けて準備を進めてきましたが、やはり「感染症」「周囲の理解」など、病院に犬が入室する事の懸念により、実現までにはもう少し時間を掛ける必要があると感じていました。しかし、「オンライン」である事でこれらのハードルが下がり、予定よりも早く子どもたちへの支援に繋げる事ができました。

これは、大阪母子医療センターでの活動をモデルケースとして、他の病院へと活動の輪を広げたいという当初の目標に近づく、大きな一歩であると感じています。

### ・活動資金（大阪母子医療センター・国立国際医療研究センター病院）

前年度に引き続き、「積水ハウスマッチングプログラム」と「大東建託みらい基金」の助成により活動することが出来ました。

そのほか、継続中のYahoo! ネット募金では、8月末現在約176万円の寄付が集まっています。今後長く続く大阪母子医療センターと国立国際医療研究センター病院への活動資金として、大切に使用致します。

毎日当たり前のようにセラピードッグがいる病院を目指して、また、子どもたちだけでなくそのご家族や病院スタッフも元気づける活動を長く継続できるよう、尽力して参ります。

### ・各種プログラム

#### セラピードッグハウス「心と心」の運営

新型コロナウイルス感染予防により訪問活動がほぼ行えていない中、セラピードッグハウスは1月、2月、5月は活動を休止していたものの、開催月には昨年度よりたくさんの方が来場してくださいました。「コロナ疲れ」の理由でハウスを利用される方もあり、問い合わせも増えています。

| 予約制            | 個人の方                                                       | 施設など団体の方                                                       |
|----------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 30分コース         | ○大人1名（高校生以上）・・・500円<br>○小中学生1名・・・200円<br>○小学生未満1名・・・100円   | _____                                                          |
| 1時間コース<br>定員7名 | ○大人1名（高校生以上）・・・1,000円<br>○小中学生1名・・・400円<br>○小学生未満1名・・・200円 | ○7名様まで・・・6,000円<br><del>○8名様以上・・・10,000円</del><br>(コロナのため人数制限) |

30分コース 大人7名、小学生1名、

1時間コース 大人58名、小中学生9名、小学生未満3名

合計78名、¥64,700（前年度より¥29,900 アップ）

#### セラピードッグサポーター養成講座開講

2021年4月より、セラピードッグサポーター養成講座を開講しました。6回の実施（5月より3回はオンライン）で、計11名が受講されました。

座学のほか、セラピードッグと実際に交流して頂き、「見て」「聞いて」「触れる」ことで、まずはその効果を体験してもらい、今後のセラピードッグの活躍の場が広がる一歩になればと考えます。

そのほか、福祉施設や病院からの新規依頼や、新規支援者の獲得も視野に入れ、集客に繋がられるよう努めます。

### セラピードッグハウス改修工事

改修工事資金獲得のため、「犬とふれあえるセラピードッグハウスの改修工事を実施したい!」というプロジェクトを立ち上げ、2020年10月26日～12月29日の期間、クラウドファンディング (READYFOR) に挑戦しました (第1目標金額¥4,000,000、最終目標金額¥10,000,000)。延べ207名の方から合計¥4,979,808のご支援を頂きました。

また、2021年2月22日より「セラピードッグハウス改修工事基金」を立ち上げ、8月末までに延べ421名の方から合計¥4,328,880のご支援を頂きました。

READYFOR、改修工事基金のほか、持続化給付金の200万円を合わせて、8月末現在、¥11,308,688の資金が集まりました。改修工事には約¥13,800,000が必要なため、引き続き資金調達に努めて参ります。

また、建物が伊丹市と池田市を跨いでおり、上下水道工事の調整に時間がかかり着工が遅れていましたが、ようやく工事の目途が立ち、2022年1月中旬に着工、春ごろ完成の予定です。

### ・セラピードッグの育成

次世代のセラピードッグ候補犬として、優音 (うた・チワワ×トイプードル) を育成しています。セラピードッグとして活動するための「潜在性・適正テスト」を2021年5月に実施、合格しました (課題付き)。大阪母子医療センターや国立国際医療研究センター病院の子どもたちとのオンラインドッグセラピーやSNSなどから活動を開始、今後も多くの方の元へ癒しを届ける存在になれるよう努めて参ります。

### ・その他

セラピードッグ「皆輪 (みわ)」 「にこり」 …引退

令和2年度で7年目となる非常勤講師を慈恵学園の大阪ECO動物海洋専門学校で務めさせていただき、セラピードッグ事業に従事する後進の育成にも力を注いでいます。

これからも災害救助犬やセラピードッグの育成・派遣に努め、同時に動物福祉の啓発活動をますます充実させていくべく努力して参ります。

## 【動物福祉事業】

令和2年度も主に動物の保護・愛護活動を実施しました。

### ・犬の保護、引き取り及び管理に関する事業

昨年度から犬9頭の飼養管理を継続し、今年度は犬1頭の保護、引き取りを行いました。

令和3年1月初旬に1頭、病気により死亡。

令和3年8月31日現在、犬4頭を管理し里親募集を行っています。

### ・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業

犬5頭を一般家庭に譲渡しました。

### ・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業

行政収容所（動物愛護管理センター、保健所、警察署など）の収容動物を一般家庭へ譲渡率を向上させるため、他の団体や動物愛護活動家と協働し犬15頭と猫29頭に医療等を施し、犬10頭と猫13頭を一般譲渡する事ができました。

今年度の掛かった費用総額は1,658,941円。財源は平成28年12月から参画したYahoo!ネット募金（行政に収容された犬や猫に必要な医療を受けさせ里親を見つけない）から充当しました。

※今年度の募金総額：1,507,965円

### ・災害への対応

#### 【令和2年7月豪雨災害】

前年度に引き続き、熊本県人吉市・球磨村で活動する地元団体と連携し、ペット用物資を被災地の物資拠点へ配布してもらう形での物資支援を実施しました。

#### 【令和3年熱海市伊豆山地区土石流災害】

8月から被災ペット世帯への支援活動を行っています。

伊豆山地区の各地域では、住民さんによる自主物資拠点が運営されており、これらの拠点へ訪問し、ペット用物資を預けてきました。早速持ち帰られる方の姿もありました。また、当協会へお問い合わせのあったお宅へ直接伺い、物資をお届けしました。

現在も許可なく立ち入ることができない警戒区域があり、自宅に戻ることができず住まいを移された方も多くおられ、住まいを移されている方に向けても、必要なペット用品のお届けやしつけ・ケアのサポートを実施しています。

現地で活動する団体経由で「引越し先のアパートで犬が落ち着かないので、家を探したい」というニーズの情報を得て、直接聞き取りを行いました。聞き取りによって、家探しには時間がかかる上、自宅は警戒区域内で再建にも時間がかかる。犬が落ち着かず吠えることで、近所に気を遣い家族が精神的に疲弊していることから、犬のしつけやトレーニングの対処が先決であると考え、お宅へ訪問し環境セッティングやトレーニングのアドバイスをを行いました。被災による住環境の急激な変化は、人にもペットにも大きな影響があります。移り住んだ先でも家族が安心して過ごせるように、静岡県や神奈川県など地元で活動する、繋がりのあるペット災害危機管理士でありしつけを専門とする方との連携を行い、訪問しつけの業務委託と言う形で、今後のサポートを継続します。

また、今回初めての試みとして、ペットと一緒に入居できる住宅にかかる費用に対する支援の取り組みを実施します。被災されたペット世帯の方の多くが、一時避難先から次の住まいに移る際の住宅探しに困ることが多くあります。特に今災害では建設型の仮設住宅は建てられず、公営住宅や借上げ民間住宅による応急仮設住宅制度が取り入れられました。公営住宅はペットの入居が認められていないことに加え、熱海市内にそもそもペット可の物件が少ないことが課題となりました。行政の借上げ条件にあてはまらず自費で家賃を支払って入居された世帯に向けて、住宅費用の一部を補助する取り組みや、不動産会社にご協力いただき、ペット不可の物件をペット可にくださった家主さんには、退去時の原状回復の費用の一部を当協会が支援する取り組みを実施します。

当協会としても初となる試みであり、支援を届けるために良い方法を試行錯誤しながら実施しています。住宅に関する課題は今後の災害でも起こりえるため、次の災害にも活かせるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。

### 【令和3年8月豪雨災害】

8月15日から支援活動を開始、大町町、武雄市を中心に被災されたペット世帯の方のニーズを調査し、物資やケアのサポート支援活動を継続しております。

大町町、武雄市のHPに日本レスキュー協会のペット支援の問い合わせ先を掲載していただいている他、各地に支援メニューを記載したチラシを配布、被災者の方からの直接の問い合わせも多くあります。地元で支援活動されているおもやいボランティアセンターや佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）、大町町地域おこし協力隊、社協他、全国から現地入りしている災害支援団体との連携のもと活動を継続しています。

8月21日、大町町に避難指示が発令され、避難区域の中にペット連れ世帯があるとの情報を受け、協会所有のマイクロバスを手配出来るよう調整し避難所に設置しました。ペットと過ごせる一時避難所として、1組（人1、犬1）の方にご利用いただきました。飼い主様には、横になって休息をとっていただけるように、簡易ベッドを2台設置しペット用物資（ウェットフード、ケージ、ペットシート、水等）も用意しました。

自宅の片付けが忙しくなかなか愛犬のお世話に時間が取れない、という声も寄せられ、散歩やケアのサポートとともに聞き取りを行いながら、散歩の支援を継続しています。ペットが元気で一緒にいられることが、生活再建へのモチベーションとなりうることを実感しています。

次年度にも継続してペット支援活動を行います。

### ・犬のしつけ方教室の開催

子犬の時から効果的なしつけを行われなかった成犬は「吠える」「咬む」などの問題行動を起こす場合があります、この問題行動が要因となり飼い主がペットに対する愛情が薄れ、結果的に保健所に持ち込まれるケースは少なくありません。

毎月1回、スーパービバホーム大阪ドームシティ店で「愛犬しつけ方教室」を開催し、飼い主に対し効果的なしつけ方を教えています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言中の実施を控え、10～12、4、7月に実施しました。8月は熱海土石流災害支援のため中止しました。

今年度は、5回開催、10組の参加があり、26,900円の売上でした。

### ・愛犬とともに学べる防災知識の向上に関する発信

各種ペット関連のイベントにおいて、ペットの飼い主に向けて「災害に対する備え」の重要性を知ってもらうための啓発活動を行いました。これまでの災害で、被災地で行なってきた被災ペットへの支援活動を元に情報発信をしています。

災害時には人命が最優先とされるため、家族であるペットの命を守るのは飼い主であるということ、そのためには日ごろからの備えがとても重要であることを飼い主に知ってもらい、「災害現場や避難所での事例」「備えておくべき非常用持出品」「日ごろから取り組むべきしつけ」などについて発信を行っています。

今後起こるかもしれない災害に向けて、もっと多くの方にペット防災に関する発信をしていきたいと考えています。

#### ・動物福祉事業組織体制

今年度も引き続き、動物福祉事業は専属職員を置かず、本部職員全体で事業を実施しています。

動物福祉事業責任者は事務局長が兼任しています。

## 【佐賀県支部】

令和2年度も継続して佐賀県支部の事業拡大に努めました。

### ・活動資金調達について

活動資金源として、ふるさと納税による資金調達を継続（平成30年9月スタート）

ふるさと納税寄付額 73,964,616（令和2年9月～令和3年8月末日）

2021年4月30日～2021年7月28日（90日間）ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」にて設定金額500万円のGCF（ガバメントクラウドファンディング）開始。タイトルは「【第4弾】災害救助犬とセラピードッグを育成・派遣する体制を構築したい！ 人と犬が共生する拠点「Wan for all. All for Wan.」を作ります。」841,000円集まり、目標金額の16.8%にて終了。

拠点建設に関して、世界的なウッドショックの影響で、建設費用が想定していたアップパーの金額を数千円上回ったため、建設基金（目標金額2000万円）の営業活動に力を入れている。8月末までに4,064,953円集まる。

2021年2月に申請した休眠預金の採択団体となり、佐賀県支部拠点のコロナウィルス対策に関する設備の購入費として活用している、また令和3年2月にペットとの同行避難を想定した大規模な避難訓練の運営費としても活用予定。助成金額10,000,000円。

### ・災害救助犬事業

佐賀県内での積極的な広報活動により、少しずつ認知されていき、様々なイベントや施設にてお声がけいただくようになっていたのだが、新型コロナウイルスの影響により全国的にイベントなどの中止が相次ぎ、今年度のイベント参加は減少（詳細は別紙参照）

### ・セラピードッグ事業

佐賀県内での積極的な広報活動により、少しずつ認知されていき、様々なイベントや施設にてお声がけいただくようになっていたのだが、新型コロナウイルスの影響により全国的にイベントなどの中止が相次ぎ、今年度のイベント参加は減少（詳細は別紙参照）

### ・動物福祉事業関連

令和2年7月豪雨災害において、日本レスキュー協会佐賀県支部は兵庫県の本部と被災地を繋ぐペット支援物資の中継地点として機能した。

また今年度の令和3年8月大雨の際も、現在大町町に建設中の佐賀県支部拠点の事務所用プレハブ（休眠預金に購入）を倉庫として活用しペット支援に関するニーズに素早く対応できるように役立てた。

職員を現地に配置することで定期的なSPFの情報共有会議に参加し、被災地の全体的な情報を抽出しながらペット支援を円滑に行える体制をとっており、ニーズがあれば素早く対応を行った。

### ・その他

佐賀県支部創設当初（2018年6月）より佐賀県内にて訓練設備を併設した拠点設置のための広い土地を探していた。令和元年令和元年8月九州北部豪雨の復旧活動の中でつながりのできた大町町に相談したところ、拠点建設の条件に合う大町町所有の土地を紹介いただいた。令和2年10月23日に大町町と進出協定を結び、紹介いただいた土地に佐賀県支部拠点人と犬が共生する拠点「Wan for all. All for Wan.」（仮）

の建設の準備を進める。7月15日に予定地にて地鎮祭を開催。8月1日より着工。完成は来年の一月予定。

SPF（佐賀災害支援プラットフォーム）に賛同団体として参加（平時から事務局業務を行った）。

SPFは佐賀県内の様々なCSO（市民社会組織）52団体（令和3年8月現在）が災害時に協力して支援を行うために集まった組織。

令和3年8月大雨において被災直後より佐賀県、佐賀県社会福祉協議会、県内外の被災地支援団体と連携し、被災地の復旧活動のため定期的に情報共有会議を開催し、それぞれのもっている情報を共有することで各支援団体とのマッチング行い、効率の良い復旧活動を行えるよう調整を行う。その中でペットニーズの情報も集め日本レスキュー協会として直接対応を行う。

その他にも休眠預金を活用して、大町町に職員および委託人員を配置し、フェーズに応じたニーズやシーズを把握できるような体制をとって被災地の一日でも早い復旧を目指している。

【事業詳細については、別紙に記載】